

第7回北海道プライマリ・ケアフォーラム

抄録集

◆ワークショップ第1部 ◆(13:00-14:20)

<①学生企画> 講師：くろまつないブナの森診療所 寺田 豊先生

帯広協会病院 堀 哲也先生

勤医協中央病院 佐藤健太先生

【タイトル】 「総合診療医に学ぶ！コミュニケーション術」

【紹介文】 患者さんとの医療面接を疑似体験し、総合診療医のコミュニケーション術を学びましょう。

【抄録】 本企画では、参加者の皆さんにロールプレイを通して医療面接を体験していただきます。その体験をもとに総合診療医のコミュニケーション術を学べるように企画しています。実際に総合診療医として働く講師陣からのリアルなフィードバックをお楽しみに！普段学校では触れられない「コミュニケーション」について一緒に考えてみませんか。

<②予防医療> 講師：手稲家庭医療クリニック 小嶋 一先生

手稲家庭医療クリニック 佐野 恵先生

【タイトル】 「日常診療の中で予防医療を実践しよう」

【紹介文】 プライマリ・ケアの日常診療でどのように予防医療が実践されているのか紹介し、自分ならどのような取り組みができるか考えてみましょう。

【抄録】 プライマリ・ケアの日常診療では定期受診される方も具合が悪くなってきて受診する新患の方もいます。それぞれの場面で予防医療の実践ができるのですが、具体的なやり方、その背景にあるエビデンスを説明します。その上で自分たちならどのような予防医療を現場で実践できるかアイデアを出してみましょう。

<③高齢者医療> 講師：寿都診療所 渡部和也先生

そよかぜ薬局 田村英俊先生

【タイトル】 「地域医療実習出前講座 ～リハビリ・薬局編～」

【紹介文】 寿都町立寿都診療所で行っている地域医療実習がフォーラム会場へ出張いたします！多職種みんなで、リハ実習と薬局実習を体験してみませんか？

【抄録】 寿都町立寿都診療所では、地域医療実習で来られる学生や研修医を受け入れており、そのプログラムの中には理学療法士が指導するリハビリ実習や調剤薬局の薬剤師による薬局実習も含まれています。私達の地域では、このふたつの職種とも患者中心の医療をサポートしプライマリ・ケアを実践しています。今回のセッションでは、皆様が寿都診療所に来られて実習を受けるという設定の仮想体験プログラムを提供いたします。

◆ワークショップ第2部 ◆(14:40-16:00)

<④ 行動変容> 講師：手稲家庭医療クリニック 大塚亮平先生
啓明クリニック 松田 諭先生

【タイトル】 「動機づけ面接 入門」

【紹介文】 行動変容のアプローチで有効な動機づけ面接のスキルを体験し、そのエッセンスを学ぶセッションです。

【抄 録】 動機づけ面接は、患者の中にあるやる気を引き出し、行動変容を支援する協働的な面談スタイルです。禁煙やアルコール問題、生活習慣病など医療や健康の分野でその有効性が実証されています。今回のWSでは、動機づけ面接の基本スキルを体験するワークを通して、その考え方や技法を学びます。患者を正論で説得する"レスリング"のような面接から、患者の動機を引き出し、強みを後押しする"ダンス"のような面接に近づくことを目指します。

<⑤ 臨床推論> 講師：勤医協中央病院 松浦武志先生

【タイトル】 問診/身体診察ってホントに役に立ってんの？

【紹介文】 「問診と身体診察で疾患の8割は診断できる」とはよく言われます。このセッションでは、診断に迫ることができる「意味のある問診」「意味のある身体診察」をご紹介します。

【抄 録】 「問診と身体診察で疾患の8割は診断できる」とはよく言われます。しかし実際のところ、「結局CTやMRI等の検査で診断つけてるでしょ？問診、身体診察ってホントに役に立ってんの？」と思っている人は多いのではないのでしょうか？ 学生・研修医の皆さんはまだ実際の臨床現場でどのように役に立っているのかを実感できていないのかもしれない。

このセッションでは、診断に迫ることができる「意味のある問診」「意味のある身体診察」をご紹介します。もちろん、直感ではなく感度・特異度といった科学的な裏付けもご紹介いたします。ついては感度・特異度をわかりやすく解説します。デキる臨床医が意味のある問診と身体診察を駆使して、鮮やかに診断に迫るその思考回路・その極意をお伝えしたいと思います。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

<⑥ 小児医療> 講師：大曲ファミリークリニック 濱野貴通先生

【タイトル】 小児診療≒家庭医療！？～総合診療/家庭医だからできる、こどものみかた～

【紹介文】 家庭医療の視点があってこそ実践できる、小児診療におけるアプローチについて学びます。

【抄 録】 小児が受診するとドキッとする…そんな経験はありませんか？病歴の聴取、保護者の対応や診察の大変さなどから、こども苦手！と思っている方、いるかもしれません。しかし、小児診療と家庭医療には共通点がとっても多いのです。

このWSでは、実際の事例を用いたロールプレイを交え、小児の成長や周囲のライフサイクルを確認しながら、家庭医療を実践する総合診療/家庭医の視点あってこそ深められる小児診療について学びます。明日からの小児診療に自信をもち、かつ楽しめるようになることを目標にします。ちょっとした小児身体診察のコツもお伝えします。

◆**学術集会**◆ (16:30-17:30)

北海道ブロック支部第4回学術集会 / 第99回北海道医学大会 プライマリ・ケア分科会
一般演題発表。・・・抄録は当日受付で配布いたします。

◆**学生向け 学術集会並行企画**◆ (16:30-17:30)

【**タイトル**】 「語り合おう！あなたにとっての総合診療2019」

【**紹介文**】 様々な専攻の学生や初期研修医向けに、先輩の医師や薬剤師をお招きし、ワールドカフェ形式でキャリアのことからプライベートなことまで聞ける本フォーラムの恒例企画です。

【**抄録**】 昨年も様々な専攻の学生や初期研修医が多数参加し、好評を博したこの企画が再びやってきました！今年も複数の総合診療医や薬剤師にキャリアのことからプライベートなことまで聞くことができます。当日は少人数のグループ毎に一人の講師を配置するので、気軽にお話しすることができます。もちろん、グループ間の移動はいつでも自由です！普段なかなか聞きづらいことも聞けるかも！？将来について熱く語り合いたい人から進路に悩んでいる人までお気軽にご参加ください！

◆**基調講演**◆ (17:40-19:00)

講師：医療法人社団悠翔会 理事長 佐々木淳先生

座長：日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部 支部長 木村眞司先生

【**略歴**】 1973年 京都市生まれ
1998年3月 筑波大学医学専門学群卒業
1998年4月 社会福祉法人三井記念病院入職（内科研修医）
2000年4月 同 内科／消化器内科医員
2003年9月 同 退職
2003年4月より 東京大学大学院医学系研究科博士課程入学
2006年4月 同 退学
2006年8月 在宅療養支援診療所（MRCビルクリニック）個人開設
2008年3月 医療法人社団悠翔会に法人化・理事長就任

【**タイトル**】 「これからの在宅医療のカタチを考える。」

【**抄録**】 在宅医療のアウトカムは何でしょうか？

日本国民の40%が高齢者になる時代がやってきます。認知症やがん、そして難病とともに地域で生活をする人も増えていきます。在宅医療に社会が求めているものは何でしょうか？そしてその社会のニーズに応えるために、私たちはどうあるべきでしょうか？

在宅医療は患者とどう向き合うべきかというコンセプト論ではなく、医療専門職として保険医療機関として果たすべき役割についても考えてみたいと思います。